

第 24 回がん臨床研究フォーラムプログラム

平成 26 年 6 月 6 日（金） 於：国立がん研究センター内国際研究交流会館

<開会の辞>（9：00～9：10）

- ・ 全国がん（成人病）センター協議会会長
（国立がん研究センター 理事長） 堀田 知光
- ・ 第 24 回がん臨床研究フォーラム実行委員長
（国立病院機構名古屋医療センター 院長） 直江 知樹

<午前の部>シンポジウム（9：10～12：00）

主題：国際標準のがん臨床研究を創出するために

日本の再興計画のテーマの 1 つに「国民の健康寿命の延伸」があげられ、医療関連産業の活性化を目指すことが明記されている。そのために、医療分野の研究開発の司令塔機能（いわゆる日本版 NIH）の創設が行われ、臨床研究中核病院、早期・探索的臨床試験拠点が 15 施設整備された。一方、バルサルタンの医師主導臨床試験における不正事件など、日本の臨床研究の「質」が社会問題化し、本年改訂予定の「統合臨床倫理指針」にも少なからぬ影響が及ぶことが予想される。国際標準の質の高い臨床試験を実施することは、日本の将来に関わる課題であり、がん臨床研究における基本諸問題を取り上げ、議論する。

座長：国立病院機構四国がんセンター
国立病院機構名古屋医療センター

臨床研究センター長 井口 東郎
がん総合診療部長 坂 英雄

【9：10～9：40】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 1 がん臨床試験推進における臨床研究中核病院の役割
国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター長 堀部 敬三

【9：40～10：10】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 2 ICH-GCP 準拠国際共同臨床試験の実際
国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究室長 齋藤 明子

【10：10～10：40】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 3 がん臨床研究グループの運営
西日本がん研究機構 事務局長・データセンター長 中村 慎一郎

【10：40～11：10】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 4 わが国からのオリジナル開発を目指した早期開発試験体制の構築
国立がん研究センター 早期・探索臨床研究センター長 大津 敦

【11：10～11：40】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 5 日本医療研究開発機構（日本版 NIH）とがん研究の方向性
国立がん研究センター 理事長 堀田 知光

【11：40～12：00】

総合討論

<昼食休憩>（12：00～13：00）

＜午後の部＞ワークショップ（13：00～15：30）

主題：がんサバイバーシップ支援

がんサバイバーシップとは患者本人や家族、友人、ケアに当たる人などの関係者たち（がんサバイバー）が診断や治療の後を生きていくプロセス全般とされている。がん対策推進基本計画にも「全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上とともに「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」が掲げられている。がん診療拠点病院に於いて、がんと診断された後に起こる医療的、心理的、社会的などさまざまな側面について十分な対応が可能になっているかどうか、日本において今後がんサバイバーシップ支援をどのように行っていけばよいか議論して頂きたい。

座長：国立病院機構名古屋医療センター
副院長 近藤 建
緩和ケア科医長 竹川 茂

【13:00～13:30】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 1 がんサバイバーシップ研究が目指すもの
国立がん研究センター がん対策情報センター
がんサバイバーシップ支援研究部長 高橋 都

【13:30～14:00】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 2 がんと生きる ～がん哲学外来からの学び～
順天堂大学医学部 病理・腫瘍学教授
(先導的がん医療開発センター副センター長) 樋野 興夫

【14:00～14:30】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 3 がんサバイバーのための、医師－患者間のコミュニケーション
国立病院機構西群馬病院 精神腫瘍科医長 間島 竹彦

【14:30～15:00】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 4 がん治療医はがんサバイバーの精神心理的・社会的苦痛を緩和し支援しながらがん治療を行う
国立病院機構金沢医療センター 精神科医長 小室 龍太郎

【15:00～15:30】

総合討論

＜閉会の辞＞

国立病院機構名古屋医療センター 副院長 近藤 建